

第6学年 学級活動指導案

人権教育研究室

- 1 主題名 相手のことを考える
題材名「旅人と住人」
- 2 目標
 - 他人の立場になって、どうやったら自分の思いがうまく伝わり、相手の気持ちを損なわずにコミュニケーションできるか考える。
- 3 本時指導の考え方
 - 本学級の子どもたちは、クラスのどの友達とも協力してグループ活動ができる。また、友達のよさを認め、友達が失敗してもそれを許すことができる場合が多い。
しかし、場合によっては固定化した友だちのとらえ方、態度が表われることがある。それが特定の子に対する厳しい口調や態度となることもある。
アンケートでも「仲のよくない人とでもうまくやれます」という項目に対し、「いいえ」「どちらかというといいえ」の児童が半数以上いた。
また、「いじめはいじめられる人に原因があるのでいじめられる人が気がつけたら、いじめはなくなると思います」という質問項目で「はい」「どちらかというとはい」と答えた児童が半数いた。
これは本学級の児童が、相手の立場や状況について深く考えずに、固定観念や偏見によって判断を下す可能性があることを示していると考ええる。
 - 誰かと人間関係を結び、ともに何かしようとするとき、自分の経験や立場で状況を整理し、判断し、結論づけ行動してしまうことがある。知らず知らず、固定観念や偏見が他者の立場や見方・考え方を結果的に無視し、一方的な見方・考え方、態度、行動を押しつけ、相手にも自分と同じ見方・考え方を要求したり、期待してしまうことがある。
このような関係は自他を尊重する態度にはつながらず、お互いを高め合うことにもならない。他者の立場や背景、見方・考え方、その場の状況などを考慮して、お互いにとって最善の判断や行動は何かを、お互いが他者の立場にたって考えることがとても大切だと考える。
このような考え方や姿勢を学ぶことは、多様な立場や属性をもつ他者との関係を、深みのある豊かなものにする上でとても重要である。
 - 本時は相手のことを考えて行動できるように、相手のことを知ろうとすることの大切さを、「旅人と住人」という正反対の立場に立ったロールプレイグをするを通して学ぶ活動である。
文化的な背景がちがう2つの役割のロールプレイグをすることで、知らないでコミュニケーションするときと、相手のことを知ってコミュニケーションするときとは、相手に対しての気持ちや態度にどのような変化が出るかを理解する。
また、「旅人」と「住人」の役割を住人役2名、旅人役4名と人数差をつけてグループピングすることで、小数者や弱者に置かれたときの気持ちについても考えることができるようにする。
ロールプレイグするときにはそれぞれの役割に別の課題を設定することで、自分たちの目的と相手の目的がちがうときにどれだけ冷静にそのちがいを受けとめ、相互にとって有効なコミュニケーションをすることの大切さにも気づくことができたらと考える。
本時の活動を通して感じたことを発表する場を位置づけ、知ること、あるいは相手のことを知ろうとすることが、コミュニケーションしたり、人間関係を深めたりするとき相手が背景や立場、見方や考え方を考慮することにつながることを、児童自身が気づいていけるようにしたい。

4 展開

配時	学習活動	支援・指導の工夫	資料ほか
	<p>1.今日の学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>相手のことを考えてコミュニケーションしよう</p> </div> <p>2.「旅人」と「住人」に分かれロールプレイをする。</p> <p>(1)グループを「旅人(2～3名)」「住人(1名)」の2つに分け、「旅人」「住人」をそれぞれ別の部屋で、状況の「旅人」と「住人」の文化的背景や状況、ものとのとらえ方、価値観などについて説明する</p> <p>(2)「旅人」役の子には「いっしょに記念写真をとらせてもらう」という課題を、「住人」役の子には「旅人となかよくなる」という課題を与える。</p> <p>(3)1つの教室にもどり、それぞれの課題達成をめざし、各グループでロールプレイを行う。</p> <p>(4)ロールプレイした感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いらいらした。 ・ むりやり写真とられそうでいやだった。 ・ なんでわからないかとむかついた <p>3.「旅人」「住人」それぞれの状況説明カードを比べ、コミュニケーションをどうしたらいいか考える。</p> <p>(1)2つの状況説明カードを確認する。</p> <p>(2)自分がよく知らない相手とコミュニケーションするとき大切なことを考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勝手に決めつけしないで、相手の身になって考える。 ・ 相手が何を伝えたいのかよく考える <p>4.本時学習をふり返り、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで友達のことをあまり考えていなかった。 ・ これからは友達のことを考えて行動したい。 	<p>○「旅人と住人」の出会いをロールプレイを通して、他者とうまくコミュニケーションすることについて話し意識づける。</p> <p>○「旅人」と「住人」異国人同士という設定で、言葉でのコミュニケーションはしないように指示する。</p> <p>○それぞれの役割設定を書いたカードを渡し、短時間で自分の役の背景を把握できるようにする。相手の役の背景については知らせないようにする。</p> <p>○それぞれがどのような課題を持っているか相手には知らせないようにする。</p> <p>○自由に動き回れるように場を工夫し、課題が達成できたら席に着くようにする。ロールプレイは7分間。</p> <p>○相手の見方や考え方、立場がわからないことで相手に対して否定的な感情が生まれるおそれがあることをおさえる。</p> <p>○ いらいらしたり、不愉快に思った原因がそれぞれの状況説明の中にあることをおさえる。</p> <p>◎ 他者に対する理解不足がコミュニケーション不全につながっていることをおさえる。</p> <p>○ 固定観念や偏見が他者との関係を悪くさせるおそれがあることについておさえ、相手の立場を想像したり、相手に共感したりすることの大切さについて気づかせる。</p> <p>○ 今までの自分をふり返り、これからの言動を自分なりに気を付けようとしている意見を賞賛し、励ます。</p>	<p>状況説明カード「旅人」「住人」</p> <p>カメラ クネクネアート</p> <p>状況説明カード「旅人」「住人」拡大図</p> <p>プリント</p>

5. 資料

【住人状況説明カード】

- ① 観光に来る旅人となかよくなりたい
- ② 写真に撮られるのはきらい。写真に撮られると何かよくないことが起こると信じている。だから、写真は撮られたくない
- ③ 初めて会う人に親しみのある態度をとることはとても失礼と思う。初めて会う人は目を合わさず、視線を下げる。特に身体にさわるのは失礼なので、相手からはなれなければいけない。
- ④ とてもきれいなク初初トを作り、世界中に売っているが、お金を信用していなくて物々交換するようにしている

【旅人状況説明カード】

- ① 住人となかよくなりたい
- ② 旅行をととても楽しみにしていた。きれいな景色や住人の記念写真を撮りたい
- ③ 初めて会う人たちなので、なるべく優しく、笑顔でコミュニケーションしたい
- ④ 美しいク初初トをぜひおみやげに買って帰りたい